

令和元年度 第4回 社会教育委員会議 会議録

■日時

令和元年11月25日（月）午後1時30分から3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- | | | | |
|---------|--------|---------|-----------|
| ・清水 眞理子 | ・田中 智美 | ・上村 卓三 | ・白畑 丈子 |
| ・高鍋 房美 | ・吉川 博文 | ・尾崎 麻由美 | ・谷 譲二 |
| ・堀内 保寛 | ・村上 栄 | ・網野 俊賢 | (欠席：瓦 俊夫) |

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

2 あいさつ

吉川委員長

- 今年も残すところ1か月余り。年をとると年月が過ぎるのが早い。NHKテレビ「チョコちゃんに叱られる」によると、子どもはときめきや発見が多いので時間が経つのが遅いと感じるが、大人はずっと過ぎてしまうとのことである。
- 先日網野委員に「年を重ねてもそれだけ前向きになるのはどうしてか」と尋

ねると、「好奇心だ」と言われた。やはり人間というのは、いろいろなことに好奇心を持ってチャレンジするのが大切だと感じた。生涯学習そのものも、そういう好奇心がベースにある。我々もいつまでも元気でがんばりたい。

川村教育長

- 11月も終わり12月がまもなくである。秋はいろいろな行事が行われ、直近では子ども祭りがあった。皆さん様々な立場でご協力いただいたことに、感謝申し上げます。
- 本日後から報告もあるが、精華西中学校区の地域学校協働活動が文部科学大臣表彰の受賞が決定した。議論もいただいた地域と学校の協働活動が、精華町内で精華中学校に続いて栄えある受賞となり、素晴らしいことである。
- 杉浦新町長となり1か月余りが経った。木村町政引き継ぐことを基本に、教育についても中学校給食の早期実現、ICT教育、学校のトイレの洋式化の推進、科学のまちの子供たちプロジェクトの推進、防災受援施設を兼用できるスペース施設の建設などを公約として掲げられ当選された。
- これらは学校教育や生涯学習、生涯スポーツの推進に大変寄与する施策であり、心強く思っている。杉浦町長としっかりと連携して取り組んでいきたい。
- 今日はこの間の皆さんの研究大会等への参加のご報告などをお伺いする。

3 議事

(1) 管外研修の振り返りについて

- ・ 令和元年度全国社会教育研究大会兼近畿地区社会教育研究大会について
10月24日（木）～25日（金）、神戸市ポートピアホテルにて開催。

村上委員

- 1日目の平田オリザさんの講演は、聞いていてとても楽しく、すかつとした気持ちになる講演だった。「わかりあえないことから—多文化共生を目指す演劇教育—」との演題で、若者と演劇をとしてのやりとりから、これからの日本のあるべき姿が言い当てられているように感じた。
- 2日目は第1分科会の地域学校協働活動に参加した。滋賀県高島市の小中一貫校である高島学園の先進的な地域連携の事例報告があり、その後ワークショップを行った。そのワークショップメンバーに、湖西中学校の校長先生がおられた。個性的な方で、厳しい状況の学校でコミュニティを立ち上げてがらんばっておられ、精華中学校に似ているお話もあった。その方によると、高島市の出身の桜美林学園を創立された清水安三という方が「学而事人」という言葉を残され、学んだことを人や社会のために役立てることが必要だという意味という。ボランティアを通して子どもたちを育成させたい、生きがいを持った子供に育てたいという考えに繋がっている。地域の方に、毎朝学校に来てあいさつに来てほしいとお願いしたところ毎日来てくださる方が

あり、そのあいさつ運動から、生徒たちが前向きになってきて、学校の状況がよくなってきたとのことである。

- 国はコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を合体して進めようとしているが、目的は一緒だと思う。子どもたちのために、地域が学校と一緒にになって何ができるか、やっていかなければいけないのか、考えることができた。

網野委員

- 午前の平田オリザさんの講演会しか参加できなかったが、非常に感銘を受けた。平田さんのずっと一貫して流れるテーマは「人づくり」と感じた。
- 演劇教育から話が始まり、新しい形の大学教育の話に続いた。兵庫県に新しくできる国際観光芸術専門職大学の学長に予定されているという。劇作家として著名だが、教育に非常に深い思いがあることがわかった。社会教育においても人づくりが大事で、社会教育委員としての責務はそこにあると話された。
- もう一点は社会教育委員の大会におけるスピーチとしての役割をきちんと認識されて、最後は社会教育委員の役割ということに話をもっていくという、巧みな話法に感心した。

尾崎委員

- オープニングアクトの高砂高校ジャズバンドの演奏が非常に印象的だった。スイングガールの映画のモデルになった学校である。
- また平田オリザさんの講演では、違いを認め合うということや、何を学ぶかということと誰と学ぶかが大事という話があり、感銘を受けた。

白畑委員

- 国によって、すぐ話しかける人、聞いたら話しかけられる人など違うという話が印象的だった。また、役柄に対してどう演じるか、人と話して相手を理解することが大事だと感じた。

上村委員

- 講演で、斬新な発想のこれからの社会教育に必要な示唆を与えてくれた。今社会のつながりが薄れており、組織を維持するのが難しくなっていると感じる。お葬式も家族葬で近所の人が出られずに、人知れずいなくなっていく。さみしい、わびしい思いである。命を輝かせる重要な役割が社会教育であり、違いを認め合って広げていきたい。

清水委員

- オープニングの高砂高校ジャズバンドは心に通じるものがあり、会場の様子も子どもたちを見守る活動をされている参加者ならではと感じた。
- 平田さんの講演では、昔は近所をわかっていたが今はわからない、そこが起点での話であった。「らしく」認め合うということが大切である。
- シンポジウムで登壇されたブレインヒューマニティーの方の活動では、若者が子どもたちとキャンプを行う。精華町でもこのような活動ができればと思

う。多様な価値を受け入れて視野を広げることが大事だと感じた。

高鍋副委員長

- 平田先生のお話で、靴の脱ぎ方の例えがあり、近いズレの方が気になるという話が印象的だった。違いを受け入れた上で受け入れることが大切である。
- いじめられている子の気持ちがわからないという話では、いじめている側との違いがあるとの話なるほどと思った。最近、二極化、格差が進んでいるように感じる。
- シンポジウムでは、心に残ったフレーズとして「機会を与えてあげる」「思い込みをのぞく」ということがあげられる。持続可能な人を育て、誰一人取り残されないようにしたい。

吉川委員長

- 講演では、多文化共生やいろいろな話があり、教育の格差より文化の格差が問題になる。「人を大事にしろ」「命を大事にしろ」というきれいな言葉より、「あなたが必要」「大事にしている」という方が生きていけるのではないか。
- 教育格差、文化の格差もあると思うが、情報はインターネットから得る機会であり、教育機関の存在意義について考えさせられた。

・令和元年度京都府社会教育研究大会について

11月22日（金）和知ふれあいセンターにて開催。

高鍋副委員長

- 7割の高校生が、自分と社会は別と考えているという数値を出されてショックだった。もっと若い人が地域づくりにかかわっていかねばいけない。そういうふうになるように大人が責任を持って取り組んでいかないといけない。
- 一生懸命取り組んでほめられたときに、人は感謝の気持ちが育つ。スポーツで優勝した選手は周りの人に感謝の気持ちを口に出してくれる。認めてあげること、褒められることを、大人も心掛けていかないといけない。
- 基本的なことだが、挨拶の大切さを改めて感じた。

清水委員

- 講演でのおやじの会の話が印象的だった。PTAのお父さんでボランティア活動に取り組みたいという人は精華町でもいるのではないか。
- 呼びかけにしても、書いたものでなくて言葉が大切ということをおっしゃった。できれば子どもたちにもいろいろなことを体験させてあげたい。安心安全、楽しい地域づくりを大人が元気な時にしていきたい。
- あいさつ運動にしても言葉が大事である。

白畑委員

- 何かをするには責任が発生する。共通体験、いわゆる「同じ釜の飯を食う」が少なくなっている。言葉は潤滑油であり、お世話する人には感謝の気持ちを伝

えることが大切である。

- おやじの会の話では、子どもたちと一緒に地域で活動することができたらいいなと思った。褒めることの大切さの話もあった。いろいろな見方がある。

尾崎委員

- 清國先生の講演で、「PTA活動が小さな損を引き受けて、大きな得を得る」と実例を交えてお話しくださった。PTA活動だけではなく、自治会やいろいろな会でこういう考え方ができれば、地域が良くなっていく。

網野委員

- 清國先生の演題は「みんなで共有・共感できる目標づくり」で、3つの視点で話があったが、時間の関係で3つめの「地域課題の関与と人材育成」について話がいかなかった。ただし、本当に言いたかったのは、人材・人の問題ではなかったかと思う。
- グループ討議では、「どうやって人を巻き込むか」の話が中心であった。最近では難しくなっていており、世代の価値観が変わっている。地域活動と関わっており、人材を得る方法が今まで通りでいいのか、深く考えさせられた。

村上委員

- グループ討議では、PTAについてはOBが関わっている方がうまくいっているという事例を挙げていただいた。
- 地域へ大学生を派遣して、いろいろな経験して、その後発表させる。そういう活動と呼び起こすのも社会教育委員の役割である。例えば、福知山公立大学の地域活動の事例があり、ふるさと意識を醸成することに繋がっている。ただし、子どもをお客さんにしてはいけない。子どもに経験させて失敗しないと、本当の経験にならないのではないか。
- クラウドファンディングの話があったが、アクトパル宇治が子どもの遊具をクラウドファンディングで募集して目標額の1.5倍集まったと聞いた。社会教育も関連している、ひとつの手法である。
- メリットは与えられるものではなく作るもの。「ありがとう」「お世話になっています」という言葉は知っているけれど使えない人が多い。お世話になってことがないから。まずはそういう体験が大事である。

谷委員

- 今まで皆さんが言われていたので、加えることは少ない。感謝の気持ちの大切さについて、その通りだと思った。

(3) その他（順番変更）

- 精華西中学校区地域連携プロジェクト（精華西中学校、東光小学校、精華台小学校）が「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。
- 子ども祭りは、11月17日（日）に開催。昨年度とほぼ同数の4000人が来場した。

- あいさつ運動は、1月8日（水）～10日（金）に実施する。
- 成人式は、1月13日（月・祝）に開催する。
- 第4次子どもの読書活動推進計画を来年度に向けて策定中である。
- 図書館年報を作成したのでご一読をお願いする。

(2) 今年度の視察研修等について

- 地域の方が学校にかかわっておられる活動をみたい。清水委員も、食育で小中学校に入られている。農業体験、手話や点字などの福祉体験などがある。
- 精華西中学校の文部科学大臣表彰の話も聞きたいと思うが、3学期は学校の忙しい時期でもあり難しい。今年度は活動の発表をメインとする。来年には学校に視察に行くことを考えていきたい。
- 加えて、以前の研修で案内のあった京都府スーパーサポートセンター府民講座を今年度の研修会にしてはどうか。発達障害の子供たちへの大人のかかわりということで、子供たちと関わる時に、発達障害の子供たちの状況や関わり方を学んでおくということは非常に大事なことだと考える。講師は少年鑑別所の精神科医の定本ゆきこさんという方がで、実際に具体的な事象について、その発達障害との関わりなどについて紹介していただけるようである。
(委員賛同。事務局としても了承)

4. 研修（社会教育委員の活動等発表 第3回）

(1) 谷委員

- 改めて、自分自身の経歴・経過について、お話ししたい。私は昭和53年に京都市内より精華町に引っ越してきて、ちょうど40年ほど経つ。ソフトボールをやっていて、僕らが来た頃にはソフトボールをPTAがやっていて、そこでお誘いいただき、それからソフトボールにはまってしまった。
- 昭和60年にソフトボール審判の資格の3種をまず取った。ちょうど昭和63年に京都国体が精華町でやるので競技役員をということで、それに向かって昭和61年に2種を取り、それから2年経過しないと1種は取れないので、昭和63年4月に1種の認定をとった。そうして、10月の国体に何とか間に合って、京都国体の精華の会場で成年女子の審判員をさせていただいた経過がある。
- それを機にいろいろな体育協会の行事にも参加するようになり、ソフトボール関係では高校総体、大学選手権、全国大会等と携わり、平成5年に正式に精華町体育協会の理事になった。
- 精華町体育協会は、平成19年に精華町体育協会のNPO法人設立の発起人として理事長に就任をして、体育協会、山城地区の初のNPO法人取得に関わった。それから、平成25年、精華町体育協会がむくのきセンター及び体育施設の指定管理者となって、現在2期目を迎えている。
- 現在私の役職としては、特定非営利活動法人精華町体育協会の専務理事、ソフ

トボール関係で相楽ソフトボール協会の会長、また京都府ソフトボール協会の副会長も兼任している。

- 社会教育委員の関わりとしては、平成26年5月に、体育協会役員でNPO法人になるときにご尽力をいただいた前任者が急に亡くなられて、急遽平成26年5月から社会教育委員になって、今3期目をやらせていただいている。今後ともまたひとつよろしくお願ひしたい。

(2) 堀内委員

- 社会教育委員は、まだ2年ぐらいで経験が浅い。私は4年前に南稲八妻の自治会の会長を2年間務めさせていただき、その間に役場にも要望書を出したり、いろいろとお世話になった。学童の通学路整備や農道の街灯などを要望し、実現されている。
- 自治会の事業としては、クリーン作戦を年2回行っている。グラウンド、児童公園の草引き、地域内道路の空き缶、ごみ拾い等を行っており、子供たちも多数参加してくれている。地域の事業としては、夏祭り、運動会、防災祭り、書き初め、とんど祭り、趣味の発表会等々を現在も新役員によって継続している。
- それから、町の文化協会の副会長も務めている。文化協会は37サークルあり、604名の会員がいる。主として年2回の夏の文化祭、冬のチャリティーフェスティバル、音の玉手箱の発表会等、定期的な発表会を行っている。また、サークルの中には書道展、絵画展、それから写真展等、役場の交流ホールをお借りして、5日間にわたる展示会をされている。また、各サークルでは、老人ホームの訪問等、いろいろと協力して参加されている。過日のせいか祭り・子ども祭りにも多数参加され、精華町の文化と芸術の向上に、私なりに微力ながら協力していきたいと思っている。
- また、自治会の老人会では会計係を担当している。老人会のグラウンドゴルフ、輪投げ、カラオケ等のサークルがあり、皆さん、ぼけないように頑張っている。

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 全国大会、府の大会で、とても有意義だったと思う。それぞれ参加された方、心に残ったことについて、決してすぐ答えが返ってくるものではないが、言い続けることが社会教育委員の仕事のひとつではないか。思ったこと、大切にしたいことをいろいろな場所で言い続けていきたい。

5 閉会